１、赤穂城跡（じょうせき）大石神社編（赤穂城跡平面図ｐ７参照）

　①「大手門前」

　赤穂へ観光にお出でいただきありがとうございます。私は、播州赤穂観光ガイド協会の○○です。今から赤穂城と大石神社を案内させて戴きます。

 前に見えますのが大手門です。右の方に二階建ての隅櫓（すみやぐら）が見えます。城壁の角（かど）にあるので隅櫓と言います。これらの建物は昭和３０年（１９５５）に市民の寄付等で復元されました。

 大手門の位置は、赤穂城の一番北になります。赤穂城の大きさは、ここから南へ約６００ｍ、東西約４００ｍで、広さは約19ha（ヘクタール）です。（約57000坪）　赤穂城は赤穂浅野家の初代浅野長直（ながなお）公が茨城県笠間（かさま）から1645年に５３，５００ 石で赤穂に来てから３年後、１６４８年から１６６１年にかけて築城した物で13年かけて完成しました。

　②「大手門をくぐり、大手の枡形（ますがた）に入る」

　ここは、大手の枡形です。今潜りました門は、高麗門（こうらいもん）と言います。右の方にはかって二階建ての櫓門があって、大手を二つの門で守っていましたが、現在は復元しておりません。櫓門の柱の跡は白い花崗岩で示しております。実際の櫓門は、あとで本丸に行ったとき、復元しておりますので見て戴きます。

 この枡形の石垣の中に５つ６つ畳の大きさほどの石がありますが、これを鏡石（かがみいし）と言って、赤穂城の顔になります。

 ③「枡形北の建物」

　こちらの建物は、大手門を守る門番の詰所で、古絵図の番所の位置に平成１５年（２００３）に建てました。休憩所として使用しています。

 ④右に見える建物は大石神社の拝殿（はいでん）です。平成１４年（２００２）に義士の討ち入り３００年を記念して建て替えました。以前は檜皮葺（ひわだぶき）でしたが、現在は銅板葺になっています。拝殿のある所は、浅野時代の家老、藤井又左衛門（ふじいまたざえもん）の屋敷跡です。

 ⑤今皆さんが歩いている場所は赤穂城の三の丸になります。前方に緑色の屋根が見えますが、あの辺りが大石内蔵助良雄（くらのすけよしたか）の屋敷跡です。

 赤穂城が出来た時から三の丸には家老以下身分の高い武士が住んでいました。浅野時代には２０軒の屋敷がありました。

 ⑥「源八長屋」

　こちらは赤穂城の縄張りをした近藤正純の子である源八の屋敷跡で、間口（まぐち）３３間、奥行き３１間、面積１０００坪です。

 長屋門の一部、江戸時代後期の建物を赤穂市が買い取り、平成１１年（１９９９）に修復したもので、土曜、日曜、祝日に公開しています。

 ⑦「大石内蔵助邸長屋門」

　こちらは大石内蔵助（１５００石）の屋敷の長屋門です。屋敷は享保１４年（１７２９）に火事で焼失しておりますが、長屋門は免れており、赤穂城が出来た時からの唯一の建物で、約３５０年たっています。昭和５３年（１９７８）には全面解体修理を行いました。

 元禄１４年（１７０１）に、江戸城松の廊下で、赤穂浅野家三代目長矩（ながのり）公が、吉良上野介（きらこうずけのすけ）に斬りつけた事件を報せに走った早駕籠の使者がたたいたのもこの門です。

 大石邸の広さは、この長屋門を中心に間口２８間、奥行き４５間、面積約１２００坪あります。

 皆さんが歩いている道は、赤穂城が完成（１６６１）したときからの道路です。

 赤穂城の大手門は、２人の家老と軍師（長矩時代：藤井又左衛門、大石内蔵助、近藤源八）で守っていました。

 ⑧まっすぐ行くと、本丸の方へ行きますが、右に曲がって先に大石神社を案内します。右の柵の中は、大石邸の庭園です。柵の内側に牡丹（ぼたん）の木が植えてありまが、これは、内蔵助が牡丹が好きだったことによります。食べ物では「ニラがゆ」と「そば」が好物だったそうです。ニラがゆは、体に良く、そばは、奥さんの理玖（りく）の家が豊岡で、近くの出石がそばで有名だったこととも関係しています。

 右前方に大きな楠の木がありますが、樹齢３００年です。３００年前内蔵助がここで生活していたとき、既にあったかもしれません。

 ⑨「義士石像」

　こちらの石像は、平成１１年（１９９９）、NHK大河ドラマ「元禄繚乱（げんろくりょうらん）」のテレビ放送があった年に、大石神社が寄付を募って建てました。

 東側、駐車場側は、大石内蔵助を大将とした表門隊２３体、西側は大石主税を大将とした２４体です。

 大石内蔵助の台座を見てください。「１１代目後裔（こうえい）大石浩史（ひろし）とありますが、大石内蔵助から１１代目の子孫です。浩史さんは現在奈良県天理市に住んでおられ現在奈良県庁に勤務されておられます。男の子が２人おりますので１２代まで続いています。内蔵助の三男良恭（よしやす）の家系です。

 石像台座の名前で、義士の姓と寄贈者の姓が同じなのは、現在の子孫です。子孫がはっきりしているのは１８家あります。大石内蔵助、主税のように親子関係は８組、間重次郎（はざまじゅうじろう）間新六（しんろく）のように兄弟関係が５組あります。４７士のうち血縁でつながっている者が２５人、全く１人で参加した者は２２人です。結束が堅かった理由かと思われます。間家は親子３人で参加しています。裏門隊の最後寺坂吉右衛門（てらさかきちえもん）がいますが、この人だけ切腹していません。吉良邸に討ち入ったのは４７人、切腹したのは４６人です。

 寺坂吉右衛門は、吉良邸から泉岳寺（せんがくじ）へ引き上げる途中で逃げたなどの説もありますが、討ち入りの様子を親族などに伝えるための生き証人として生かされたのが本当ではないでしょうか。吉右衛門は３８才で討ち入り、４５年間生きて８３才でなくなっています。

　子孫の寺阪さんの「坂」の字が違いますが、３００年の間に変化したものと思われます。

 ⑩「大石神社神門（しんもん）」

　こちらの神門は昭和１７年（１９４２）に神戸の湊川（みなとがわ）神社の神門を移築した物です。湊川神社も忠臣、楠正成（くすのきまさしげ）を奉っておりますので、同じ忠臣としての間柄かと思われます。湊川神社の建物は戦災でことごとく焼失しましたので、貴重な遺構と思われます。

 大石内蔵助の屋敷跡は、この神門から、正面の拝殿の手前にある石段の前までの範囲です。

 ⑪「神門から拝殿までの間」

 大石神社にお祀（まつり）していますご祭神（さいしん）は５８柱（ちゅう）です。討ち入った４７士、萱野三平、浅野家三代（長直、長友、長矩）と赤穂最後の藩主森家の七武将です。森家七武将の中には本能寺の変でなくなったことで有名な森蘭丸、力丸、坊丸も含まれています。

 大石神社の創建は大正元年（１９１２）です。

 境内には、拝殿の左側に義士宝物殿が２つ、石段と神門の間に、義士木像奉安殿と大石邸の庭園があります。

 ⑫「義士石像の中程」

 こちらに大石瀬左衛門（せざえもん）の石像があり、うしろに「大石瀬左衛門宅跡の石柱と説明板がありますが、ここに大石瀬左衛門の屋敷があったということです。

 反対側の駐車場の一部は、片岡源五右衛門（げんごえもん）の屋敷跡です。

 ⑬「石像から二の丸門跡まで」

 浅野時代（１６４５～１７０１の浅野家三代５７年間）の石高について説明します。 米の石高で５万３千５百石

 支配地は、現在の赤穂市、相生市、上郡町で約３万６千石、そして北東５０ｋｍに飛び地がありまして、兵庫県加西市、加東市の一部で約１万７千石、合わせて約５万３千石です。

 更に赤穂には塩田で生産される塩があります。浅野時代に２５０haの塩田があり、（森時代は４００ha）そこでとれる塩を米に換算すると、約２万５千石になります。

 合わせて約７万８千石の財政だったことになります。

 そこで幕府は浅野家に余裕があると考え、勅使接待役（ちょくしせったいやく）を命じ、吉良上野介の指導のもとその役目を果たさせようとしていましたが、元禄１４年３月１４日に浅野長矩公が吉良に斬りつけるという事件が起こりました。この原因は今もはっきりしていません。長矩公は１７歳の時と３５歳の時の２回接待役を命じられております。

 塩は、今でも１年間に２３万トン生産されています。昔のように広い塩田は必要なく工場でイオン交換膜（こうかんまく）に海水を通してNa、CLを分離して塩を作っています。

 右の方に煙突や高圧線鉄塔が見えますが、あそこは西浜塩田跡（２５０ha）で、今工場地帯になっています。東浜塩田跡（１５０ha）は、兵庫県立赤穂海浜公園（７２ha）や住宅地になっています。

 ⑭「二の丸門跡」

 ここは二の丸門跡です。こちらの石の台座の上に明治１０年頃撮影した二の丸門の写真があります。政府は明治４年（１８７１）の廃藩置県の後、城を残しておくと、反乱軍の拠点になることを恐れ、全国の城の建物をとりこわさせたので、赤穂城も本丸御殿や門などをこわし、城壁の石垣と堀が残ったのみです。古い写真がありますので、いずれ市は昔と同じように復元するでしょう。

 ⑮「二の丸庭園完成予想図」

 こちらは、発掘調査（平成１０年～１３年）に基づき、二の丸庭園の復元工事をしています。面積は１．５haですが、まだ一部分しか出来ていません。

 現在できている物は、檜皮葺（ひわだぶき）の茶亭｛浮玉堂（ふぎょくどう）平成１７（２００５）年｝二の丸庭園の表門である冠木門（かぶきもん）＜平成２０（２００８）年＞、大石頼母助（たのものすけ、大石内蔵助良雄の祖父の弟）の屋敷門である薬医門（やくいもん）＜平成２１（２００９）年＞と白しっくいの築地塀（ついじべい）です。

 ⑯「本丸門」

 前に見えるのが、赤穂城の本丸門です。明治１０（１８７７）年頃の古い写真をもとに、平成４年から門の所だけ復元し、平成８（１９９６）年に完成しました。

 門の所以外の苔のついた古い石垣は、城が完成した１６６１年当時の物です。平成１１（１９９１）年のNHKの大河ドラマ「元禄繚乱」の撮影を、本丸門で行っています。 石垣の石は花崗岩で、赤穂北側の山からとってきた物です。

 手前に見える門を高麗門（こうらいもん）、奥に見える二階建ての門を櫓門（やぐらもん）と言います。門の材質はケヤキです。

 ２つの門の間を本丸枡形（ほんまるますがた）と言います。

 ⑰「本丸櫓門の下から、本丸御殿跡を見て」

 前に見えますのが、本丸御殿跡で、間取り（まどり）を復元しています。市は建てたいのですが、残念なことに建物の古写真が無いため、建てられません。

 御殿の広さは約９００坪（３，０００㎡）あり、御殿を３等分しまして、右３分の１は藩庁（はんちょう）＜藩の役所＞、中央３分の１は殿様の私的な生活場所、左３分の１は、奥で女性の生活場所です。

 御殿の向こうには、池があり、大名庭園になっています。また、御殿の向こうに石垣が見えますが、あれは天守台（てんしゅだい）で、高さ９ｍあります。

 あの上に天守閣を建てるつもりでしたが、結局建てられませんでした。

 建てられなかった理由としては、

 １、徳川幕府が出来てから６０年たち平和な時代になったこと。

 ２、明暦３（１６５７）年に江戸で大火事があり約１１万人の人が死んだ、明暦の大火、通称振り袖火事（ふりそでかじ）といいます。このとき江戸城天守、御殿が燃えてしまいました。以後、江戸城天守は建てられませんでした。よって、幕府を憚って（はばかって）赤穂城も天守閣を建てなかった。

 ３、幕府より御所造営を命じられ、多額の出費をしたので、財政的に苦しかった。 などが考えられます。

 赤穂城の復元工事は、本丸が終わり、今二の丸庭園の工事をしていますが、それが終われば、三の丸の工事をして、赤穂城趾を昔の姿に戻す計画です。

 これをもちまして、赤穂城趾、大石神社の案内を終わります。ありがとうございました。お気を付けてお帰り下さい。

 また来られるときも、播州赤穂観光ガイド協会をご利用ください。

 ＜余談＞

 赤穂では、赤穂浪士とは言わず、赤穂義士と言います。赤穂藩浅野家が断絶した後は浪士ですが、吉良邸に討ち入り、亡き主君の無念を晴らした後は義士と言います。

 ちなみに、赤穂義士は呼び方が４度変わります。最初は「藩士」断絶後は「浪士」討ち入り後は「義士」大石神社建立後は「神様（○○の尊＜みこと＞」です。